

我が国の防衛と予算

平成20年度概算要求の概要



防 衛 省
Ministry of Defense

1 安全保障環境を踏まえた防衛力の近代化	P 2
○ 海洋の安全確保のため、哨戒能力を向上させた次期固定翼哨戒機（P-X）を導入	
○ 防空能力の強化のため、現有のF-15戦闘機の近代化改修を促進	
○ 最先端の航空機技術と優れた国産技術力を結集した先進技術実証機研究に着手	
2 政策立案機能や情報保全機能を強化するための組織作り	P 4
○ 組織改編等を通じて政策立案・危機対処能力を強化	
○ 我が国の防衛上必要な情報を適切に管理・保全するため、情報保全部隊を集約・統合化	
3 国際社会の平和と安定のための取組	P 5
○ これまでの国際平和協力活動の実績を踏まえ、装備品を改善・充実	
○ 国際平和協力活動に係る常日頃からの教育・広報体制を充実	
4 効率性と優先度を踏まえた防衛力整備の推進	P 6
○ 一括調達を活用しつつ、重要な装備品の優先的な取得を効率的に実施	
○ 部隊の能力の維持を図りつつ、総人件費改革を推進	
5 弾道ミサイル攻撃への対応	P 8
○ 弾道ミサイル迎撃システムの導入と運用本格化にあわせ、運用基盤を充実・強化	
6 新たな脅威や多様な事態等への対応	P 9
○ テロやゲリラ、特殊部隊による攻撃から大規模災害に至るまでの様々な事態に迅速な対処を可能とする装備品の整備を推進	
7 在日米軍再編のための取組	P 10
○ 抑止力を維持しつつ地元の負担を軽減するため、在日米軍の兵力構成見直し等に関連する措置を的確かつ迅速に実施するための施策を推進	
8 軍事科学技術の進展と情報通信態勢の構築	P 11
○ 将来の軍事科学技術の動向を踏まえ、先進的な研究開発事業等を実施	
9 人材強化の取組と環境対策の推進	P 13
○ 自衛隊の人材強化の取組として、子育てと仕事を両立できる職場づくりや働きやすい環境づくりのための施策を推進	
10 基地対策等の推進	P 14
○ 防衛施設と周辺地域との調和を図るため、基地周辺対策を着実に実施するとともに、在日米軍の駐留を円滑かつ効果的にするための施策を推進	

主要な装備品・組織等	P 15
防衛関係費	P 21
（参考資料）	P 33

1 安全保障環境を踏まえた防衛力の近代化



海洋の安全確保と防空能力の向上のため、能力向上した装備品の取得・改修を推進するとともに、国産技術力を生かした先進的研究に着手する。

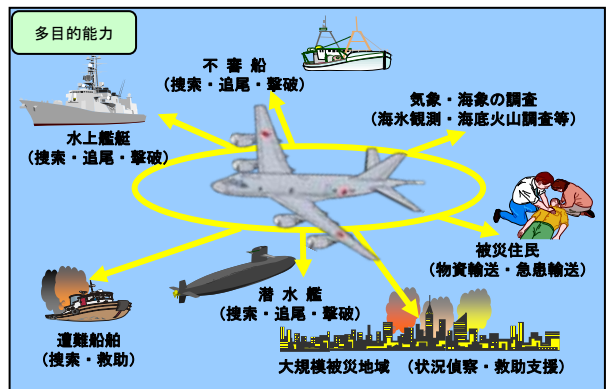
海洋の安全確保のための能力向上【1, 132億円】

■ 周辺海域の警戒監視能力の向上

- ・ 現有の哨戒機（P-3C）に比べ、飛行性能、探知性能、静粛性などが向上した次期固定翼哨戒機（P-X）の取得【新規】



P-X 初号機



〈P-Xは、P-3Cに比べ、相当程度エンジン音を静粛化〉

■ 潜水艦への対応

- ・ 潜水艦の探知・識別・追尾に係る能力強化
- ・ 浅海域における潜水艦対処の能力の維持・向上

■ 武装工作船等への対応

- ・ 掃海・輸送ヘリコプター（MCH-101）や特別機動船（SB）の取得などにより特別警備隊等の即応態勢を維持・強化



MCH-101の着艦



SBを用いた特警隊の訓練

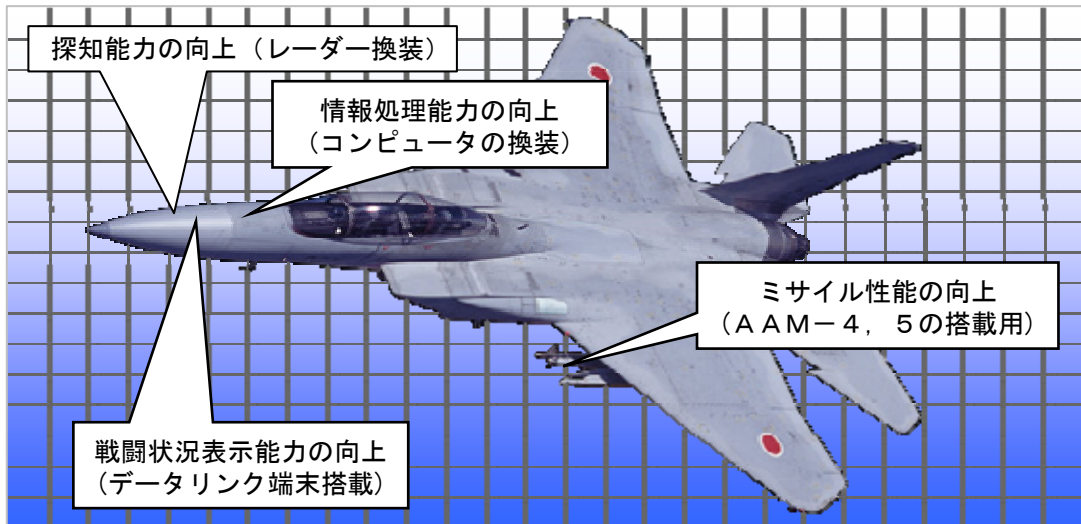
- ・ 小型水上船舶に対する監視機能の強化、射撃能力の向上

事業の前倒しによる防空能力の早期強化

■ 戦闘機（F-15）の近代化改修【1, 123億円】

- ・ 近年顕著な周辺諸国による航空戦力の急速な近代化に対応
- ・ 戦闘機的能力向上を早期に実現するため、2個飛行隊分を一括整備

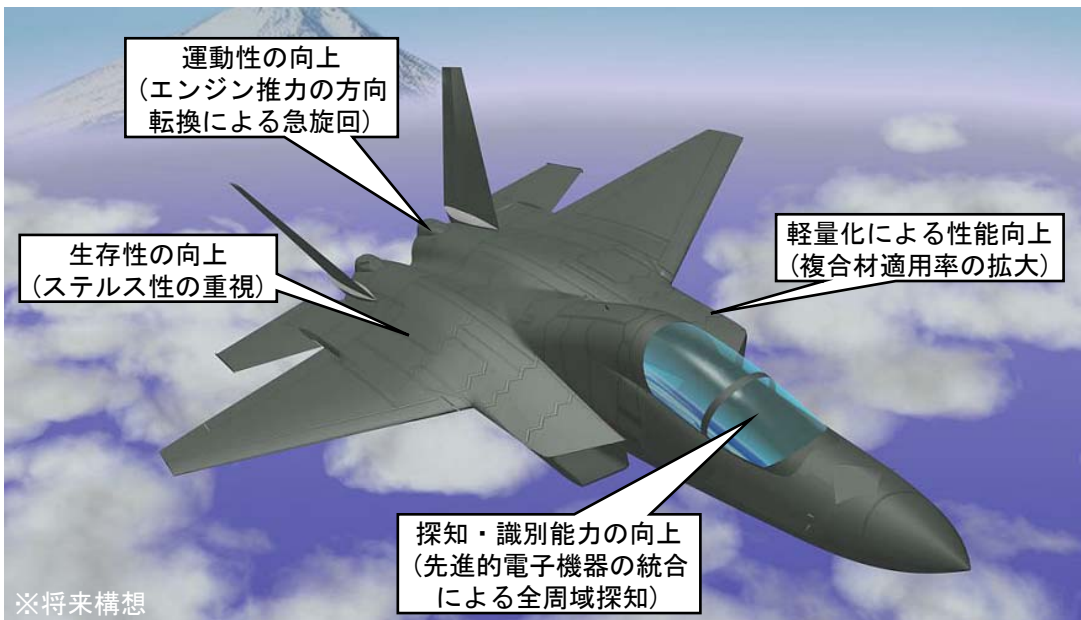
〔主要な改修内容〕



最先端技術に重点を置いた国産装備品の研究

■ 先進技術実証機の研究【157億円】【新規】

- ・ これまで蓄積してきた先進的な航空機技術の成果を統合
- ・ 我が国が得意とするレーダー、コンピュータ技術等を活用
- ・ 飛行実証等により将来的な小型航空機の技術の向上に寄与



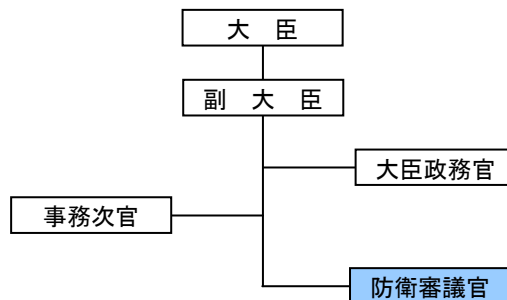
2 政策立案機能や情報保全機能を強化するための組織作り



防衛省として、政策立案・危機対処能力の強化を図るとともに、我が国の防衛上必要な情報を適切に管理するため保全機能を強化する。

政策立案・危機対処能力の強化

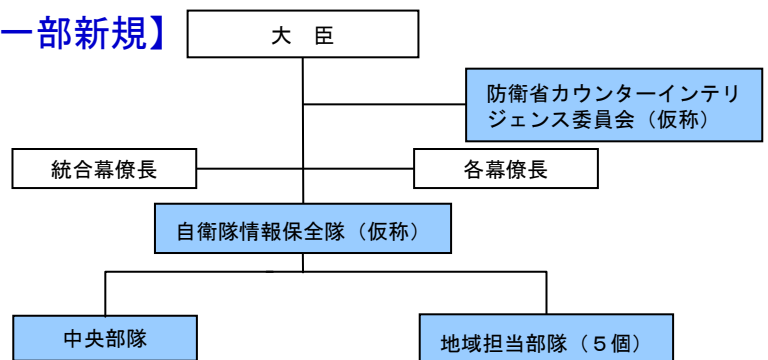
- 防衛省の総括整理職である「防衛審議官」（事務次官に次ぐポスト）の新設【新規】
- 人事教育局「給与課」の新設【新規】
- 防衛政策局防衛政策課「宇宙・海洋政策室」の新設【新規】



防衛審議官の新設

情報保全組織の見直し

- 自衛隊情報保全隊（仮称）の新編【新規】
 - ・ 各自衛隊の情報保全隊を統合し、情報保全機能を集約化した自衛隊情報保全隊（仮称）を設置
 - ・ 情報保全隊要員の増強
- 防衛省カウンターインテリジェンス委員会（仮称）の設置【新規】
- 保全点検機材等の整備【一部新規】
- 教育の充実



※ 警務隊の統合

- ・ その他、情報保全の観点から捜査能力の強化等を目的として、陸海空の警務隊を統合（その具体的な内容につき検討中）

3 国際社会の平和と安定のための取組



これまでの国際平和協力活動の実績を踏まえ、装備品の改善・充実を実施するとともに、教育・広報体制の充実等を図る。

概算要求額 254億円

これまでの実績を踏まえた改善・充実

- 国際平和協力活動のための装備品の改善
 - ・ 車両等の国際活動仕様化
 - ・ 先遣隊用の各種コンテナ整備【新規】
 - ・ 夜間洋上補給用スポットライト整備【新規】
 - ・ 輸送機への自己防御装置の整備 等



高機動車（国際平和協力活動用）



洋上補給中の補給艦



輸送機の自己防御装置

国際平和協力活動に係る教育・広報と防衛交流の充実

- 国際平和協力活動のための教育・広報施設の建設着手【新規】
 - ・ 我が国及び諸外国の活動状況の展示
 - ・ 国際平和協力活動に関する教育と研究・交流
- 防衛交流の推進【一部新規】
（日豪防衛・外務閣僚協議、日米豪3カ国協議、多国間会議の開催）
- 国際平和協力活動に係る教育訓練の推進
 - ・ 多国間訓練（コブラゴールド）への参加
 - ・ 国際平和協力演習の実施



（教育・広報施設のイメージ）

4 効率性と優先度を踏まえた防衛力整備の推進



歳出削減に貢献しつつ、必要な防衛力を優先度を踏まえて整備するため、一括調達など新たな工夫を推進する。

一括調達の活用による効率性と優先度の追求

■ 次期固定翼哨戒機（P-X）の一括調達



不審船の発見を含む警戒監視活動や対潜戦への対処能力を向上させるため、現有P-3Cより能力が向上したP-Xについて、2カ年分4機を一括調達
→2カ年に分けて整備した場合に比べ、約141億円を節減

■ 戦闘機（F-15）近代化改修の一括調達



周辺環境に対応して、戦闘機による防空能力の向上を早期に図るため、F-15近代化改修について、2個飛行隊分整備するために必要な32機を一括調達
→3カ年に分けて整備した場合に比べ、約230億円を節減

■ 掃海・輸送ヘリコプター（MCH-101）の一括調達



海自特別警備隊の移動や物資等の海上輸送といった新たな任務に対応するため、MCH-101について、2カ年分3機を一括調達
→2カ年に分けて整備した場合に比べ、約29億円を節減

■ 89式小銃の一括調達



陸自隊員の個人能力の更なる向上を早期に図るため、89式小銃について、全作戦基本部隊に必要な約2万丁を一括調達

新素材を用いた艦齢の延伸によるコストの低減

■ 掃海艇（MSC）のFRP化



機雷等の除去に有用なMSCについて、船体に繊維強化プラスチック（FRP: Fiber Reinforced Plastic）を使用
→従来の木造船に比べ、艦齢を約2倍（30年）に延伸可能となり、ライフサイクルコストを低減

総人件費改革への取組

■ 民間委託等の推進

- ・ 教育、給食、整備等の分野での民間委託の推進
- ・ 地方協力本部の援護業務の民間開放及び募集業務の効率化の推進



民間委託の推進

■ 自衛隊生徒制度の見直し

- ・ 陸上自衛隊
→少年工科学校を高等工科学校（仮称）に名称変更し、身分を防大「学生」並びとして募集【新規】
- ・ 海上自衛隊・航空自衛隊
→募集を終了



自衛隊生徒制度の見直し

契約方法の工夫による単価の軽減

■ 情報システム等借料の複数年度契約化による節減

- ・ コンピューター及び複写機等の借料について、従来の単年度契約から複数年度契約を行い、業者の中途解約リスク等を節減

5 弾道ミサイル攻撃への対応



弾道ミサイル防衛（BMD）システムについて、迎撃システムの取得が進捗したことを踏まえ、運用基盤の充実・強化を図ることにより、運用の実効性を向上させる。

概算要求額 1, 580 億円

BMDシステムの運用基盤の充実・強化

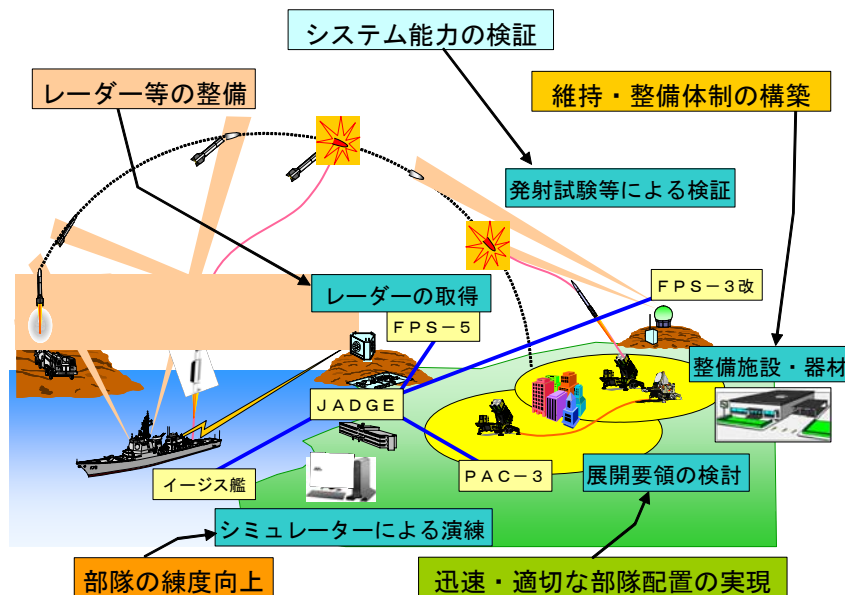
- レーダー等の整備
 - ・ FPS-5（旧称FPS-XX）の整備 等
- 維持・整備体制の構築
 - ・ ペトリオット・システムの改修 等
- システム能力の検証
 - ・ PAC-3ミサイルの発射試験 等
- 迅速・適切な部隊配置の実現
 - ・ PAC-3リモートランチ端末の取得【新規】 等
- 部隊の練度向上
 - ・ ペトリオット戦術訓練シミュレーターの改修 等



FPS-5の整備



PAC-3ミサイルの発射試験



迎撃システムの整備の継続

- BMD対応イージス艦の改修の継続・PAC-3ミサイルの取得

研究開発の継続等

- イージス艦用能力向上型迎撃ミサイルの日米共同開発 等
- 多国間BMDカンファレンス（会議）への参加 等

6 新たな脅威や多様な事態等への対応



テロやゲリラ、特殊部隊等による攻撃や大規模災害などへの対応能力の充実を図る。

ゲリラや特殊部隊による攻撃等への対応【1, 110億円】

- 沿岸部等における警戒監視・情報収集
 - ・ 移動監視レーダー等の整備
 - ・ 沿岸監視訓練の実施
- ゲリラや特殊部隊の搜索、重要施設防護
 - ・ 各種車両、ヘリコプター、無線機の整備
- 侵入したゲリラや特殊部隊の捕獲・撃破
 - ・ 89式小銃を**全作戦基本部隊に整備**
 - ・ 都市型戦闘訓練
- 警察との連携の強化
 - ・ 治安出動に係る警察との共同訓練



都市型戦闘訓練



警察との共同訓練

核・生物・化学兵器による攻撃への対処【136億円】

- 対処に必要な各能力の充実
 - ・ 予 防 : 天然痘ワクチン
 - ・ 検知、同定 : 生物偵察車、化学剤監視装置
 - ・ 防 護 : 化学防護車、個人用防護装備
 - ・ 診断、治療 : 生物剤対処用衛生ユニット
 - ・ 除 染 : 除染車、除染装置、携帯除染器
 - ・ 人材育成 : 各種事態への対応のための訓練
(NBC防護訓練)



除染活動訓練

大規模・特殊災害等への対応【1, 099億円】

- 救出・救難態勢
救難捜索用航空機の整備 (UH-60J等)
- 人員・物資輸送態勢
輸送用航空機の整備 (CH-47JA等)
- 災害対処能力の向上
災害対処訓練の実施 (自衛隊統合防災演習など)



災害対処訓練

7 在日米軍再編のための取組



「在日米軍の兵力構成見直し等に関する政府の取組について」（平成18年5月30日閣議決定）を踏まえ、再編関連措置を的確かつ迅速に実施するための施策を推進する。

再編関連措置（地元の負担軽減に資する措置を除く）【171億円】

- キャンプ座間への陸上自衛隊中央即応集団司令部の移設（15億円）
- 横田飛行場への航空自衛隊航空総隊司令部等の移設（153億円）
- 航空自衛隊車力分屯基地への弾道ミサイル防衛のための米軍のレーダー・システムの配置（3億円）

再編関連措置（地元の負担軽減に資する措置）

- 在沖米海兵隊のグアムへの移転
- 普天間飛行場のキャンプ・シュワブへの移設
- 嘉手納飛行場以南の地域の土地の返還
- 厚木飛行場から岩国飛行場への空母艦載機の移駐等
- 相模総合補給廠の一部返還等
- 嘉手納飛行場所在米空軍機の本土への訓練移転
- 地域振興策（再編交付金等）



嘉手納飛行場から空自築城基地に飛来した米軍戦闘機（共同訓練）

地元の負担軽減に資する措置については、可能な限り早期に実現することが重要との観点から、予算編成過程における地元や米軍等との調整結果を予算に反映させることが必要であり、今後、予算編成過程において検討し、必要な措置を講ずることとしている。このため、要求額は前年度同額の166億円で仮置き。

SACO関係経費

- 日米安全保障協議委員会（「2+2」）共同文書による変更がないものについては、引き続きSACO最終報告に盛り込まれた措置を着実に実施（前年度同額の228億円で仮置き。）